

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2370400992		
法人名	有限会社アット		
事業所名	アットホームあいり		
所在地	愛知県名古屋市西区玉池町255番		
自己評価作成日	令和4年3月20日	評価結果市町村受理日	令和4年10月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigoyosyoCd=2370400992-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigoyosyoCd=2370400992-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和4年4月26日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ご利用様が自由に外出できるよう夜間帯以外は玄関の施錠をしておらず、好きな時に外へ出られるという安心感を持って頂いている。防犯上や単独での外出のリスクと対策についてもご契約の際にご本人様とご家族様に説明をし納得された上で入居して頂いている。  
ホームにお庭があり陽当たりも良く、四季折々の木々やお花が植えられており、庭に出たり窓からの景色だけでも季節を感じて頂ける様にしている。また、冬場には暖炉を使用し自然の温もりを感じて頂ける環境になっている。食事に関しては利用者様にも好みを伺いつつ、一緒に作る事で自立支援に努め、また、認知機能の進行防止に努めている。家庭的な雰囲気の中で生活を送って頂き、コロナ禍でなければ利用者様と一緒に買い物や地域での行事にも参加している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

1年余ホームを離れていた元管理者が戻ってきた。「人間は人間らしく」の理念に沿い、「最後まで人間としての尊厳を失わないで人生を全うして欲しい」との思いを胸に、自立支援に取り組んでいる。利用者の思いに沿って可能性を追求し、介護計画に取り上げて支援している。  
利用者の自主性を尊重して取り組んでいた地域との関わりが、コロナ禍によって中断を余儀なくされている。十数年欠かさずに継続開催されていた法人主導の「いどばた会」や「うた声喫茶」は、空白期間が2年を超すこととなった。コロナ感染症の収束が前提となるが、早期の再開が待たれる。  
コロナ下においても、家族との信頼関係は揺るぎないものとなっており、家族アンケートにはホームや職員への励ましや労いの言葉が寄せられた。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念に関しては職員がいつでも確認できる場所に貼り出してあり、いつでも共有できる状態になっている。人と人の触れ合いと言う点から、外に出かけた際のご近所の方への挨拶等で地域交流も図っている。	1年余りホームを離れていた元管理者が帰ってきた。利用者が一人の「人間」として認められ、尊厳が保たれることを理念に掲げ、自立支援に重点を置いた支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のためにあまり積極的な交流は出来ていないが、散歩に出かけた際にご近所の方へ挨拶とする事、保育園や小学校の外から見学させて頂いたりと交流の意識は持ち続けている。	コロナ禍によって、長年継続してきた「いどばた会」や「うた声喫茶」が中断している。買い物は地域の商店やコンビニエンスストアを使い、地域との関わりが途切れないように配慮している。	コロナの早期収束によって、「いどばた会」や「うた声喫茶」が再開され、さらに新たな取組みに進展していくことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍のため以前行っていた「いどばた会」や「うたごえ喫茶」など中止となっているが、再開されたら再び地域貢献していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で利用者様の参加は控えさせて頂いているが、人と人の距離を空け、時間も短縮しながら開催している。以前から同様に地域の実情やご家族様のご意見なども伺いながら、ホームでの取り組みに活かし報告させて頂いている。	年間6回の運営推進会議のうち、コロナの感染状況が緩んだ2回は対面の通常開催ができた。残り4回は、感染防止の観点から中止の措置をとった。	コロナ禍によって運営推進会議の対面開催が困難な場合、代替の開催方法(リモート開催、書面開催等)を検討することが望ましい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議でいきいき支援センター、社会福祉協議会の方々も参加して頂き、事業所での活動報告等お互いに情報共有し些細な事でも相談し合える関係性を築いている。	通常開催の運営推進会議には、行政枠でいきいき支援センター(地域包括支援センター)の職員の参加がある。区の担当者との連携は電話やFAX、メールが主であり、区を訪問することはほとんどない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームでは日中玄関や庭に出る窓に鍵をかけず、いつでも外に出て頂けるようになっており、利用者様の意思で行きたいところに行ける状態になっている。また、勉強会やミーティング時にも取り上げ、なにが身体拘束にあたるのか話し合う機会も増え、より意識が高まっている。	毎月実施される職員ミーティングの中で身体拘束適正化のための会議を行い、職員の権利意識を高めている。利用者の行動を制止する言葉の問題や、自立の見極めのポイント等を話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待等みられていないが、ミーティングでの議題にあげることで話し合う機会も増え、少しでも疑問に思えばスタッフ間で声を掛け合いながら虐待予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に勉強会を行い、権利擁護(アドボカシー)、自立支援、成年後見人制度についてなど学ぶ機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時から退居時のことをご説明させて頂いており、利用者様とご家族様からの理解も深いものとなっている。また、ケアプラン更新の説明時や面会時に気になる事を伺っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で以前まで行っていた「家族会」ができず、集まった意見交換はできていないが、ご家族様の面会時やご利用者様本人から要望があった際にはしっかり話し合い、取り入れられるように努めている。	コロナの「蔓延防止重点措置」は解除されたが、家族面会は制限付きの「窓越し面会」を継続している。面会に関しては、「病院の対応に準じた対応」を基準として示しており、家族の了解も得られている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度管理者を除いたスタッフミーティングと管理者や代表を交えた全体ミーティングを行うことで意見交換、情報共有などを行っている。介護感や意見の食い違いもあり、いかに同じ方向を向けるか難しいこともある。	喫緊の課題があれば、管理者が出席しないスタッフミーティングで話し合い、その内容が全体ミーティング(管理者、代表等が出席)で報告される。意見が下から上に上がる仕組みが構築されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に面談を行い体調面、やりがい、自己アピール等聞き取り、職場での働きやすい環境に努めているが、まだまだ行き届いていないこともあるため、事業所として一丸となって取り組める体制を整えていきたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に法人内研修が開催され、また、管理者とリーダーはグループワーク等を行っており、学ぶことも多い。定期的な面談や個人的に面談を行い個々の力量を把握しより良いケアが出来る様に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は行っていた他法人のグループホームなどが集まり勉強会や交流を深めていたコンソーシアムも、コロナ禍のため実施できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居して間もない頃は特に不安が多い為、積極的に関わり、利用者様の話によく耳を傾け、情報収集を行っている。内容は別紙に細かく記入しスタッフ間で情報共有ができるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に際して、ご家族様と事業所の距離感を親戚が一つ増えたとさせて頂き、共に協力して利用者様を支える関係性を構築している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様のニーズを中心に、ご家族様からの意見も伺い、その人を中心とした支援をすることを意識している。その時その時で変わる気持ちや状況に応じて随時支援内容を見直すよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることはご自分でやって頂き、出来ないところを支援する。ご本人様が努力されたことには感謝を忘れず、一人の大人(人生の先輩)として話を聞いて頂いたり、意見なども参考にさせて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の為、ご家族様との関りも薄くなっているが、手紙や窓越しでの面会にてやりとりをさせて頂き、関係性が途絶えない様に努めている。耳が遠い方などはスタッフが間に入り日々の様子を伝えさせて頂いたり、双方の関係が上手く成り立つ様に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為ご友人様が訪ねて来られる事や、外出される機会は減ってしまったものの、お手紙や贈り物へのお礼の電話や年賀状等で交流を継続している。	デイサービスに出向いてピアノを弾いていた元音楽教師の利用者は、コロナ禍によって楽しみを奪われた。家族からロールピアノの贈り物があったが、鍵盤のタッチの違いによって、演奏することができない。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士で近くに座って頂いたり、お互い困ったことなど話し合うことで、支えあって行く意識が生まれたり、言葉が上手く伝えられない場合等はスタッフが間に入りながら関りを持って頂ける様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方のご家族様からお礼のお手紙を頂く事もあり、電話等で話したりと関係性は続いている。また、掃除道具などの寄付等も続いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に入居前の情報や生活歴を伺い、入居後も日々情報収集を行いご本人様の希望(ニーズ)に沿った支援が出来る様に努めている。	約半数の利用者は、言葉によって自らの意思を伝えることができない。日々の会話やTVを視聴するときの反応等から、利用者の思いや意向(食べ物の嗜好等)を汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	上記同様、情報収集に努めている。過去の情報が少ないことも多い為、関わりの中から情報を得よう心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	手を出しすぎず、現状どこまで出来るのか等、有する力を見極めている。また、表情や顔色等の観察、スタッフ間での情報共有を行い、小さな変化も見逃さない様努めている。落ち着かない等ある場合もあらゆる可能性を考え、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフミーティングやモニタリングを活用し、スタッフ間で情報共有、意見を出し合いケアプランの作成を行っている。出来る限り本人の希望を叶えられるプランとなるよう心掛けている。	利用者の思いや希望を叶えようと、自立支援にも目を向けた介護計画を作成している。ふらつきのある利用者は、「自分で歩きたい」との意思があり、それを実現させるための目標が設定されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の小さな変化等も記録に記入し、申し送り等でも情報共有し、ケアプランの更新時以外も必要であれば随時変更することもある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームでできるケアだけでなく、法人内でもできることを考えて事業を展開している。終末期などの対応もできるよう法人として支援できる体制の確立に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域との関りがなくなっているが、散歩に出た際に近隣の方への挨拶を行うことで関係性を保てるよう努力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居される前からのかかりつけ医を継続利用される方もおられる。また、ホームとの連携を図っている往診医とも情報共有し、安定した医療が提供できる関係性が築けていると思われる。	これまでのかかりつけ医を継続して利用する利用者もいるが、ほとんどの利用者が月に2回来訪する2医療機関の訪問診療を受けている。それとは別に、訪問看護師による健康管理が月2回ある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在ホームに看護職はいないが、医療連携で必要時に応援にきて頂いている。また、かかりつけ医とも連携を図り、情報の共有に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供書を作成し、入院後に必要なケアが受けられるよう努めている。また、退院についても早期退院して頂ける様、病院やご家族様からの相談にも積極的に応じている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の段階で終末期の話をして頂き、いざその時になっても落ち着いて考えられるよう来る日に備えている。かかりつけ医とも連携して看取りまでさせて頂けることお伝えしている。	法人内に様々なサービスを提供できる施設があり、重度化による他施設への移行も可能である。しかし、ほとんどの利用者・家族がホームでの看取りを希望している。利用者・家族の意向を優先することとしており、昨年度は1件の看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人としての研修で学んでいるが総ての職員とまでは言えないが、救急搬送の対応はできている。また、医療連携で看護師とは連携できている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っており、昼間夜間想定で動ける様にしている。消防訓練等受ける機会もある。	至近距離に河川があり、ハザードマップ上では水害警戒区域に指定されている。水害時の避難先を法人のサービス付高齢者住宅の3階とし、消防と確認を行っている。法人、ホームの双方で備蓄を持っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いに関してはミーティング等でも触れ、意識しているものの、咄嗟の際等には崩した言葉になる事もあり注意していきたい。声掛けの大きさや言葉選びなど、場所に応じて対応できている。	理念に基づいて、利用者を一人の人間として尊重する姿勢で支援している。ミーティングでは、常に言葉遣いの問題が話し合われている。スピーチロックに関して、職員意識は高い。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の希望を伺うが、表出が難しい方はスタッフの主観が入ってしまう。働きかけの工夫が必要であり、関りを増やす中で新たな気づきを見つけていきたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様のペースで生活して頂き、安全に配慮している。こうしたい、と言われた際にも応えられるようしているが、職員のペースになってしまっている場合もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝髪を整えたり、衣服も前日と同じにならない様支援、汚れた際はその都度或いは入浴時など利用し更衣して頂いたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けなど一緒に出来ることはやって頂き、盛り付け時は彩り等考えて盛り付け、少しでも食事の時間が楽しくなるよう心掛けている。	3食手作りの食事を提供しており、調理や後片付けには利用者の手伝いがある。利用者の希望を聞き入れ、パスタやパンのメニューもある。飲酒の習慣がある利用者は、毎晩2合の焼酎で晩酌を楽しむ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分に関して記録し、なかなか摂取して頂けない方へは声を掛けさせて頂いたり、ご家族様に好きな物等を伺った上で提供することもあるが、摂取が難しい方もみえる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは継続して行っている。自己にて難しい方は支援している。定期的に訪問歯科にて見て頂き清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレチェック表を用い、排泄パターンを理解することで失禁などされない様誘導できている。リハビリパンツから布パンツに戻すことができた方もいる。	「失禁は職員の責任」との強い思いを持って排泄支援(改善)に取り組んでいる。昼夜ともに布パンツで過ごす利用者もあり、職員は「安易にリハパンにしない」との共通認識を持って支援にあたっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に野菜類を多く取り入れたり、水分を摂って頂く等工夫はされているが、それでもダメな場合はかかりつけの医師と相談し内薬にてコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	最低でも二日に一回のペースで入って頂けようにさせて頂いており、ご希望があれば毎日入られる方もおられる。ADLの低下により二人介助が必要な方でも入って頂ける様な体制を整える努力をしている。	利用者全員が毎日入浴できる体制を敷き、手厚い入浴支援である。同性介助を基本としているが、やむを得ず異性介助となる場合には、丁寧に説明して納得を得た上で介助にあたっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心されよく眠られているように思われる。混乱などで夜間起きて来られた場合は落ち着かれるまでお話をしたり、日中運動したりすることで、しっかり眠って頂ける様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬袋に何を飲まれているかの記載があるものの変更があった際の更新が出来ていない。薬情報はファイリングされている為、確認は可能であり、意識づけが必要である。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	煙草やお酒、裁縫などご自由にして頂いたり、散歩やレクなどで気分転換できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出行事は行えていないが、日常生活で散歩には出かけられている。	コロナ下、ピアノを弾きに馴染みのデイサービスに通うこともできず、いどばた会やうた声喫茶への利用者の参加も途絶えている。気分転換を図るため、ホーム周辺への散歩が外出支援の主体となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様が財布を持たれている場合もあるが、ホームでの金銭管理はしておらず、ご希望がある場合などは立て替えて対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物のお礼等で連絡し、取り次ぐことはあるものの、ご本人様の希望もなく、電話や手紙のやり取りなどは行っていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除などをし、清潔な空間にしているのと同時に、壁面などを飾り少しでも季節感を感じて頂ける様にしている。派手なものにはせず、家のような空間のなかで過ごして頂いている。	コロナ禍以前は、家族等の来訪によって賑わっていたリビングも、今は利用者職員だけの静かな空間となっている。華やかな装飾もなく、落ち着いたある共用空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	決まった席などではなく好きな所に座って頂いたり、居室などにも自由に行き来されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みのあるものを持参された場合は、なるべく使用を続けることで安心して頂ける様心掛けている。	新型コロナウイルスへの感染防止の観点から、居室の見学を自粛した。コメントなし。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ることは継続して行って頂いたり、変化など職員間で情報共有できないところを支えるような対応を心掛けている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370400992		
法人名	有限会社アット		
事業所名	アットホームあいり		
所在地	愛知県名古屋市西区玉池町255番		
自己評価作成日	令和4年3月20日	評価結果市町村受理日	令和4年10月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyoSyosyoCd=2370400992-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyoSyosyoCd=2370400992-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和4年4月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用様が自由に外出できるよう夜間帯以外は玄関の施錠をしておらず、好きな時に外へ出られるという安心感を持って頂いている。防犯上や単独での外出のリスクと対策についてもご契約の際にご本人様とご家族様に説明をし納得された上で入居して頂いている。  
ホームにお庭があり陽当たりも良く、四季折々の木々やお花が植えられており、庭に出たり窓からの景色だけでも季節を感じて頂ける様にしている。また、冬場には暖炉を使用し自然の温もりを感じて頂ける環境になっている。食事に関しては利用者様にも好みを伺いつつ、一緒に作る事で自立支援に努め、また、認知機能の進行防止に努めている。家庭的な雰囲気の中で生活を送って頂き、コロナ禍でなければ利用者様と一緒に買い物や地域での行事にも参加している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念に関しては職員がいつでも確認できる場所に貼り出してあり、いつでも共有できる状態になっている。人と人の触れ合いと言う点から、外に出かけた際のご近所の方への挨拶等で地域交流も図っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のためにあまり積極的な交流は出来ていないが、散歩に出かけた際にご近所の方へ挨拶とする事、保育園や小学校の外から見学させて頂いたりと交流の意識は持ち続けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍のため以前行っていた「いどばた会」や「うたごえ喫茶」など中止となっているが、再開されたら再び地域貢献していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で利用者様の参加は控えさせて頂いているが、人と人の距離を空け、時間も短縮しながら開催している。以前から同様に地域の実情やご家族様のご意見なども伺いながら、ホームでの取り組みに活かし報告させて頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議でいきいき支援センター、社会福祉協議会の方々も参加して頂き、事業所での活動報告等お互いに情報共有し些細な事でも相談し合える関係性を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームでは日中玄関や庭に出る窓に鍵をかけず、いつでも外に出て頂ける様になっており、利用者様の意思で行きたいところに行ける状態になっている。また、勉強会やミーティング時にも取り上げ、なにが身体拘束にあたるのか話し合う機会も増え、より意識が高まっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待等みられていないが、ミーティングでの議題にあげることで話し合う機会も増え、少しでも疑問に思えばスタッフ間で声を掛け合いながら虐待予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に勉強会を行い、権利擁護(アドボカシー)、自立支援、成年後見人制度についてなど学ぶ機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時から退居時のこともご説明させて頂いており、利用者様とご家族様からの理解も深いものとなっている。また、ケアプラン更新の説明時や面会時に気になる事を伺っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で以前まで行っていた「家族会」ができず、集まった意見交換はできていないが、ご家族様の面会時やご利用者様本人から要望があった際にはしっかり話し合い、取り入れられるように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度管理者を除いたスタッフミーティングと管理者や代表を交えた全体ミーティングを行うことで意見交換、情報共有などを行っている。介護感や意見の食い違いもあり、いかに同じ方向を向けるか難しいこともある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に面談を行い体調面、やりがい、自己アピール等聞き取り、職場での働きやすい環境に努めているが、まだまだ行き届いていないこともあるため、事業所として一丸となって取り組める体制を整えていきたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に法人内研修が開催され、また、管理者とリーダーはグループワーク等を行っており、学ぶことも多い。定期的な面談や個人的に面談を行い個々の力量を把握しより良いケアが出来る様に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は行っていた他法人のグループホームなどが集まり勉強会や交流を深めていたコンソーシアムも、コロナ禍のため実施できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居して間もない頃は特に不安が多い為、積極的に関わり、利用者様の話によく耳を傾け、情報収集を行っている。内容は別紙に細かく記入しスタッフ間で情報共有ができるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に際して、ご家族様と事業所の距離感を親戚が一つ増えたとさせて頂き、共に協力して利用者様を支える関係性を構築している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様のニーズを中心に、ご家族様からの意見も伺い、その人を中心とした支援をすることを意識している。その時その時で変わる気持ちや状況に応じて随時支援内容を見直すよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることはご自分でやって頂き、出来ないところを支援する。ご本人様が努力されたことには感謝を忘れず、一人の大人(人生の先輩)として話を聞いて頂いたり、意見なども参考にさせて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の為、ご家族様との関りも薄くなっているが、手紙や窓越しでの面会にてやりとりをさせて頂き、関係性が途絶えない様に努めている。耳が遠い方などはスタッフが間に入り日々の様子を伝えさせて頂いたり、双方の関係が上手く成り立つ様に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為ご友人様が訪ねて来られる事や、外出される機会は減ってしまったものの、お手紙や贈り物へのお礼の電話や年賀状等で交流を継続している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士で近くに座って頂いたり、お互い困ったことなど話し合うことで、支えあって行く意識が生まれたり、言葉が上手く伝えられない場合等はスタッフが間に入りながら関りを持って頂ける様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方のご家族様からお礼のお手紙を頂く事もあり、電話等で話したりと関係性は続いている。また、掃除道具などの寄付等も続いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に入居前の情報や生活歴を伺い、入居後も日々情報収集を行いご本人様の希望(ニーズ)に沿った支援が出来る様に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	上記同様、情報収集に努めている。過去の情報が少ないことも多い為、関わりの中から情報を得よう心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	手を出しすぎず、現状どこまで出来るのか等、有する力を見極めている。また、表情や顔色等の観察、スタッフ間での情報共有を行い、小さな変化も見逃さない様努めている。落ち着かない等ある場合もあらゆる可能性を考え、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフミーティングやモニタリングを活用し、スタッフ間で情報共有、意見を出し合いケアプランの作成を行っている。出来る限り本人の希望を叶えられるプランとなるよう心掛けている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の小さな変化等も記録に記入し、申し送り等でも情報共有し、ケアプランの更新時以外も必要であれば随時変更することもある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームのできるケアだけでなく、法人内のできることを考えて事業を展開している。終末期などの対応もできるよう法人として支援できる体制の確立に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域との関りがなくなっているが、散歩に出た際に近隣の方への挨拶を行うことで関係性を保てるよう努力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居される前からのかかりつけ医を継続利用される方もおられる。また、ホームとの連携を図っている往診医とも情報共有し、安定した医療が提供できる関係性が築けていると思われる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在ホームに看護職はいないが、医療連携で必要時に応援に来て頂いている。また、かかりつけ医とも連携を図り、情報の共有に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供書を作成し、入院後に必要なケアが受けられるよう努めている。また、退院についても早期退院して頂ける様、病院やご家族様からの相談にも積極的に応じている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の段階で終末期の話をして頂き、いざその時になっても落ち着いて考えられるよう来る日に備えている。かかりつけ医とも連携して看取りまでさせて頂けることお伝えしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人としての研修で学んでいるが総ての職員とまでは言えないが、救急搬送の対応はできている。また、医療連携で看護師とは連携できている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っており、昼間夜間想定で動ける様にしている。消防訓練等受ける機会もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いに関してはミーティング等でも触れ、意識しているものの、咄嗟の際等には崩した言葉になる事もあり注意していきたい。声掛けの大きさや言葉選びなど、場所に応じて対応できている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の希望を伺うが、表出が難しい方はスタッフの主観が入ってしまう。働きかけの工夫が必要であり、関りを増やす中で新たな気づきを見つけていきたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様のペースで生活して頂き、安全に配慮している。こうしたい、と言われた際も応えられるようしているが、職員のペースになってしまっている場合もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝髪を整えたり、衣服も前日と同じにならない様支援、汚れた際はその都度或いは入浴時など利用し更衣して頂いたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けなど一緒に出来ることはやって頂き、盛り付け時は彩り等考えて盛り付け、少しでも食事の時間が楽しくなるよう心掛けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分に関して記録し、なかなか摂取して頂けない方へは声を掛けさせて頂いたり、ご家族様に好きな物等を伺った上で提供することもあるが、摂取が難しい方もみえる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは継続して行っている。自己にて難しい方は支援している。定期的に訪問歯科にて見て頂き清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレチェック表を用い、排泄パターンを理解することで失禁などされない様誘導できている。リハビリパンツから布パンツに戻すことができた方もいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に野菜類を多く取り入れたり、水分を摂って頂く等工夫はされているが、それでもダメな場合はかかりつけの医師と相談し内薬にてコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	最低でも二日に一回のペースで入って頂けようにさせて頂いており、ご希望があれば毎日入られる方もおられる。ADLの低下により二人介助が必要な方も入って頂ける様な体制を整える努力をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心されよく眠られているように思われる。混乱などで夜間起きて来られた場合は落ち着かれるまでお話をしたり、日中運動したりすることで、しっかり眠って頂ける様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬袋に何を飲まれているかの記載があるものの変更があった際の更新が出来ていない。薬情報はファイリングされている為、確認は可能であり、意識づけが必要である。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	煙草やお酒、裁縫などご自由にして頂いたり、散歩やレクなどで気分転換できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出行事は行えていないが、日常生活で散歩には出かけられている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様が財布を持たれている場合もあるが、ホームでの金銭管理はしておらず、ご希望がある場合などは立て替えて対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物のお礼等で連絡し、取り次ぐことはあるものの、ご本人様の希望もなく、電話や手紙のやり取りなどは行っていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除などをし、清潔な空間にしているのと同時に、壁面などを飾り少しでも季節感を感じて頂ける様にしている。派手なものにはせず、家のような空間のなかで過ごして頂いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	決まった席などではなく好きな所に座って頂いたり、居室などにも自由に行き来されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みのあるものを持参された場合は、なるべく使用を続けることで安心して頂ける様心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ることは継続して行って頂いたり、変化など職員間で情報共有できないところを支えるような対応を心掛けている。		